

地域政策課から、8月までの地域コミュニティ組織の活動状況や市の施策を紹介します。

前羽地区

7月20日 前羽海岸クリーン作戦

前羽地区まちづくり委員会では、前羽青少年健全育成連絡協議会と共同主催で、海岸清掃を行いました。前羽地区では毎年恒例となっている地域の一大イベントで、今年で31回目の開催となりました。

酷暑の中での清掃ですが、毎年、多くの地域住民が参加し、地域の大切な資源である海岸の環境保全に努めています。

（参加者：458名 回収量：730kg）



東富水地区

7月25日 東富水納涼サマーフェスタ

絆ふかめたい東富水の生活環境・地域振興分科会では、地区全体のイベントであるサマーフェスタを盛り上げるため、子どもくじのブースを出店しました。

当日は、泉中学校のボランティアの生徒と一緒に活動し、たくさん子どもたちが訪れました。また、途中夕立がありましたが、昨年度に引き続き、最後はみんなで打ち上げ花火を鑑賞しました。



地域政策課から、8月までの地域コミュニティ組織の活動状況や市の施策を紹介します。

上府中地区

7月29日 農業体験学習 (ヒエ取り)

上府中地区まちづくり委員会農業指導プロジェクトチームでは、6月に千代中学校1年生と植えた稲のヒエ取りを、男女バスケットボール部、女子バレー部、卓球部の生徒、及び教職員と一緒に行いました。

稲とヒエの見分け方を教えてもらったり、終了後には感謝や、また参加したいという意欲を伝えるなど、中学生が地域のかたと積極的に交流する様子が見られました。



上府中地区

7月30日 お結びころりん

上府中地区まちづくり委員会では、毎月第2土曜日に開催している子ども食堂「お結びころりん」を、今回は夏休み期間中であることから、平日に開催しました。

子どもたちは大人に見守られながら、涼しい公民館の中でかくれんぼや鬼ごっこをしたり、折り紙などをして、それぞれ楽しく過ごしていました。遊んだ後は、スタッフの皆さんが子どもたちが喜びそうなメニューを考え、用意してくれた食事を、みんなで美味しく食べました。



地域政策課から、8月までの地域コミュニティ組織の活動状況や市の施策を紹介します。

東富水地区 7月31日 防犯パトロール

絆ふかめたい東富水の防災・防犯・教育分科会では、富水駅から蛭田駅にかけて夜間の防犯パトロールを実施しました。参加者はビブスを着用し、誘導棒を手に持って、小田原アリーナや東富水小学校、金田公園、豊岡公園等の施設を巡回しました。

また、パトロールに合わせてゴミ拾いを行うとともに、防災情報や交通標識の設置状況など、様々な地域の情報についても情報交換し、有意義な時間を共有しました。



下中地区 8月1日 下中わくわくフェスタ

下中地区まちづくり委員会の文化・教育分科会では、橘タウンセンターこゆるぎで、下中わくわくフェスタを開催しました。子どもたちに楽しい夏の思い出を、と新たに企画したイベントは多くの来場者で賑わいました。

会場には、竹遊び、銅板を銀に変える実験、下中座の人形芝居体験、地図から歴史を考える下中タイムマシンの4ブースがあり、子どもたちは楽しみながら学べる体験をしました。休憩場では保護者同士の歓談も見られ、地域交流の場ともなりました。

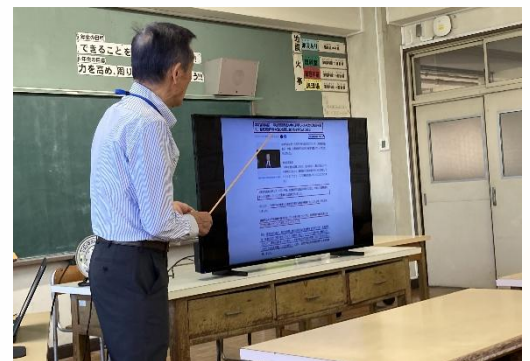


地域政策課から、8月までの地域コミュニティ組織の活動状況や市の施策を紹介します。

下府中地区 8月8日 防災講演会

下府中まちづくり委員会の安全防災分科会では、大道自治会、中里1区-2自治会との共催による防災講演会を開催しました。

市防災対策課の職員を講師に迎え、「防災気象情報・地震・富士山火山」をテーマとした講演が行われ、質疑応答では、参加者から日頃感じている疑問や不安などが寄せられるなど、防災への関心の高さがうかがえ、身近な災害への備えについて理解を深める有意義な講演会となりました。



富水地区 8月21日 光る泥だんごづくり

富水地区まちづくり委員会の子どもサポート分科会では、夏休み企画として富水小学校、報徳小学校の高学年児童を対象に「光る泥だんごづくり」ワークショップを開催し、17名の児童が参加しました。

子どもたちは、泥だんごキットを使って一心不乱に土をこねて丸め、赤、青、黄色、灰色の中から選んだ好きな色粉をまぶし、転がしてピカピカに光らせました。最後に時間をかけて出来上がった泥だんごを掲げ、笑顔での集合写真撮影となりました。



地域担当職員による試行的な場づくりの取組

～農と食を介した多世代交流の場づくり～

本市では、農園での農と食を介した体験を通じて、子育て世代をはじめとする多様な人々の新たな関わりを創出し、地域活動の裾野を広げていく取組「農と食を介した多世代交流の場づくり」を展開しており、地域担当職員の学校配置とも連動し、地域担当職員による場づくりを実践しています。

今回は、今年度から地域担当職員を配置している酒匂小学校での取組を紹介します。

【学校菜園跡地を”地域の交流の場”として活用！】

酒匂小学校では、開校150周年記念事業に関する業務をはじめ、地域・学校・活動団体をつなぐコーディネート業務などを行っているほか、学校側から了承をいただき、酒匂小学校のシンボルツリー「クスノキ」の隣にある学校菜園跡地を”地域の交流の場”として活用しています。



▲市ホームページ
「農と食を介した多世代
交流の場づくりの推進」



【地域担当職員が自ら開墾！】

5月13日(水)には、地域コミュニティ系の職員で耕うん機を使って開墾しました。慣れない機械の操作や炎天下での作業など、改めて身をもって場づくりの大変さを痛感したと同時に、農作業を通じてみんなで汗を流すことで生まれる一体感や充実感を体感することができました。





【地域住民有志とともに場づくり！】

この農園は、一般社団法人エディブル・スクールヤード・ジャパンとも連携し、今後予定している食農イベントのフィールドとして活用していきます。そのための準備として、7月8日(水)には、地域住民有志とともに、アーチ型の畝を作り、大豆の種まきとその他野菜の苗植えを行いました。

今回の場づくりが、これまで接点のなかった住民同士の新たな出会いの場にもなり、農園には、多様な人々との新たな関わりを生み出す大きな可能性があることを実感しました。



その後、大豆は無事に発芽・開花し、今後予定している食農イベントに向けて、地域住民と協力して、日々草取りや水まきを行っています。



【今後に向けて！】

9月5日(土)のキックオフイベントを皮切りに、10月17日(土)に枝豆、11月28日(土)に大豆のそれぞれ収穫を通じた食農イベントの開催を予定しています。

農園で生まれる新たな関わり合いを通じて、将来の担い手の確保や、役員の負担軽減へとつなげていくため、現場での実践を続けていきます。

